

私と世界のつながりのつながり

中澤純一（浜松学院中学校・中央大学大学院）

1 はじめに

グローバル社会が進む今日、多文化共生・貧困・異文化理解・環境など人類共通の課題が数多く存在している。世界中の人々が共に生きることのできる公正な地球社会を目指すため、人類共通の様々な課題を知り、理解し、そして解決に向けての行動を起こす力を育むことは大変重要なことである。

日々、新聞やニュースでは、国際紛争、環境問題、少子高齢化社会、非正規雇用者の増加など、様々な問題が報道されており、子ども達もこれらの課題や問題について触れる機会が多い。開発途上国に対する開発支援の現場でも、様々な利害関係者が答えのない課題や問題について解決策を模索している。これらの課題や問題を解決するための、対策や施策にはなかなか明確な答えがない。これらの明確な答えがない課題や問題を解決するにはどうしたら良いのだろうか。

まさに、子どもたちが JICA 地球ひろばを訪問することは、世界が直面する様々な課題を、体験型の展示から学び、開発途上国の現状や課題について知り、考え、行動変容を促す学びの好循環を生み出す大きな学習効果が期待される。さらに、訪問後の事後学習をしっかりと行うことで、JICA 地球ひろばで子どもが、「聴いた→見た→触れた→気づいた」ことが整理され、日々変化する社会と予測困難な未来の社会に向けて必要となる多くのスキルを生徒自身が身につけることが期待できる。

そこで、本指導案では基本展示「人間の安全保障展－世界の幸せと悲しみ－」と持続可能な開発目標（SDGs）を中心に、参加型学習やアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）を取り入れた事後学習における指導案（単元計画）を提案したい。

2 指導案（単元計画）

1. 単元名（対象学年）	私と世界のつながりのつながり（中学生）	
2. 実施期間と総時数	JICA 地球ひろば訪問後 全 3～6 時間 ※ 備考を参照のこと	
3. 関連教科領域	総合的な学習の時間、特別活動、社会科、英語、国語 等	
4. 単元目標	○「人間の安全保障」の観点から、すべての人々が安心して生きることができ、その生活が人間らしいものであることについて考え、私と世界との結び付き、持続可能な社会を創造する態度を身に付ける。【関心・意欲・態度】 ○「持続可能な開発目標（SDGs）」を手がかりとして、多面的・多角的に考察、構想し、表現する。【思考・判断・表現】 ○「JICA 地球ひろば」における展示物から、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用することができる。【技能】 ○地域社会の一員として認識し、持続可能な社会を創造するための知識を身に付けることができる。【知識・理解】	
5. 学習活動の展開		
次／時	主な学習活動 (○は教師の発問、・は生徒の活動を示す)	資料・留意点
1 次 1 時間	世界のメッセージと世界の現状 ○ JICA 地球ひろばで見た、様々な展示物の中で、印象に残っている見出しやメッ	・ JICA 地球ひろばを訪問する際、地球ひ

	<p>セージを挙げてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・訪問時に記入した地球ひろば探検シートを元に、印象に残っている見出しやメッセージを A4 用紙一枚につき一項目書き出す。 <p>例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よりよく生きたい」という願いを実現するために ・恐怖からの自由、欠乏からの自由をめざして ・安全な水へのアクセスがない、ということ ・「女の子」は学校に行く必要がないと思われています 等 <p>○A4 用紙に書いた見出しやメッセージが、なぜ印象に残っているのか、その理由や思いをグループの中で話し合ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人1枚ずつ、印象に残っている見出しやメッセージを紹介し、その理由や思いを発表する。各々用紙がなくなるまで、発表を繰り返す。 <p>○各グループで最も印象に残ったものを1つ選んで、全体で共有しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選ばれた見出しやメッセージを全体で共有する。 ・グループで選んだ見出しやメッセージを共有した後、全体で気づいたことを発表する。 	<p>ろば探検シートを用意し、様々な展示物の中で印象に残ったものや気づいたこと、感銘を受けた言葉など書き記しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A4 用紙を 1 人 5 枚程度配布する。マジックで A4 用紙 1 枚につき一項目書き出すよう指示を促す。用紙が足りなくなった場合は、適宜、配布する。また、書き出す時間を設定する。 <p>・4～6 人のグループで行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループでの発表が終わった後、発表の中で最も印象に残ったものを 1 つ選ぶ。 ・JICA 地球ひろばで鑑賞した「人間の安全保障」は、すべての人々が安心して生きることができ、さらにその生活が人間らしいものを目指していることを再認識する。
<p>2 次 2 時間</p>	<p>「人間の安全保障」について考えよう</p> <p>○誰もが安心して生存し、人間らしい生活をおくるためには、どのようなことが求められるのか考えてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マンダラシートを活用し、①グループごとに前時に挙げた見出しやメッセージを解決するための具体的な取り組みや手立てを 8 つ書き出す。②8 つを各自が担当し、取り組みや手立てを実現するための手段をそれぞれマンダラシートに書き出す。 <p>○各グループで完成させたマンダラシートを元に、「人間の安全保障」とはどのようなことか考えましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに各自の気づきや変化について書き出す。 ・グループで共有した後、全体で発表をす 	<ul style="list-style-type: none"> ・4～6 人のグループで行う。 ・マンダラシートを活用することで、「人間の安全保障」に関し、他人事ではなく自分事として捉え、具体的な行動へ促すことできるようにする。 ・具体的な対策や支援を考えさせるために、実施期間や対象、場所、費用などを考える。 ・具体的な対策や支援を考える際、JICA 地球ひろばでの展示資料から学んだことも取り入れるよう指示をする。 ・グループで完成したマンダラシートを全体で共有する。 ・すべての人々が安心して生存でき、人間らしい生活ができる状態をつくるとはどういうことなのか考えるよう促す。

<p style="text-align: center;">3 次 2 時間</p>	<p>る。</p> <p>SDGs からグローバルイシューを考える</p> <p>○SDGs とは何かふりかえってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICA 地球ひろばの SDGs で気づいたことや学んだことを全体で共有する。 ・グループごとに担当の SDGs の目標が書かれた資料を読み解く。 <p>○グループで担当している SDGs の目標を他のグループの人に伝えるため、紙パワーポイントを作ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループ担当する目標の資料を読み解いたことや JICA 地球ひろばでの展示資料を元に、紙パワーポイントを作る。 ・グループごとに、担当の目標を紙パワーポイントで発表する。 ・他のグループの発表を聞きながら、担当の目標とどのような繋がりがあるのか、つながりシートに各自記入する。 <p>○グループで担当している SDGs の目標と他の目標がどのように繋がっているのか、グループで話し合ってみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が書いたつながりシートを元に、グループで話し合い、『解決に向けどのように繋がっているのか』の視点で、各グループとの繋がりを話し合う。 <p>○ウーリーシンキングで各グループの目標とつながりましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ内で動く交渉人、動かない交渉 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA 地球ひろばで見た、SDGs に関する展示をふりかえる。 ・ 3～4 人のグループで行う。 ・SDGs の目標が書かれた資料の一例として、『私たちが目指す世界 子どものための「持続可能な開発目標 (SDGs) ～2030 年までの 17 の目標～」(日本語版製作：公益財団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン) の各目標のページを活用する。 ・取り上げる目標の数は、クラスの生徒数で変わるが、JICA 地球ひろばでの展示内容に配慮して選択する。 ・ A4 用紙 1 枚につき、1 項目書く。文字で表現しても、絵で表現しても構わないことを促す。 ・他のグループの発表を聞きながら、自分のグループの担当の目標とどのように繋がっているのか考える。その際、つながりシートに担当の目標の解決に向け、どのように繋がっているのかメモを取るよう促す。 ・各グループの紙パワーポイントは、黒板に貼り出す。 ・黒板に貼られた各グループの紙パワーポイントを見に行っても構わないことを指示する。 ・つながりシートを配布する。つながりシートには、解決にむけてどのように繋がっているのか、その理由を記入するように指示する。 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループに交渉結果記録を配布する。 ・グループ数分の色の違う毛糸を用意し、各グループに配布する。 <ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間の中で、多くのグループと交渉するよう促す。
---	---	--

	<p>人（毛糸持ち）、記録係を決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> •部屋の中央を囲むように動かない交渉人（首に項目を書いた画用紙をかける）は椅子に座り、記録係は椅子の横に立つ。動く交渉人は毛糸玉を持つ。 •動く交渉人は自分のグループで話し合ったことをもとに、毛糸をもってつながっていると思われる椅子の所に行って、動かない交渉人と記録係と、自分たちの問題が相手側にどんな関連や理由でつながっているのか説明し、交渉が成立したら相手に毛糸の一端を渡す。交渉が成立したら記録係は自分たちとどのような理由で繋がったのか交渉記録シートに記入する。 <p>○どんなつながりが生まれたか、ウーリーシンキングを見てみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> •毛糸のつながりを観察し、なぜそのように繋がっているのかふりかえり、全体で共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> •ウーリーシンキング終了後、各自のグループに戻り、どのグループとつながったか確認する時間を設ける。 •SDGsの17つの目標に目を向け、それぞれの目標の達成のためには、17つの目標について、知り・考え・つながりを感じ・動く（アクションを起こす）ことが大切であることを考えさせる。
<p>4次 1時間</p>	<p>世界を変える・未来への提言</p> <p>○世界が直面している様々な課題を解決するために、私たちはどのように課題解決に向け行動変容をしていけば良いのか考えましょう。</p> <p>○付箋に『15年後の世界のありたい姿や目標』を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> •各自、1付箋につき1項目『15年後の世界のありたい姿や目標』を書き出し、A4の用紙に付箋を貼る。 •全員で黒板に貼った模造紙（タイムマシン法）に各自の付箋を貼りだす。その際、似た意見は重ねる。 <p>○付箋に『10年後の世界のありたい姿や目標』を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> •各自、1付箋につき1項目『15年後の世界のありたい姿や目標』を書き出し、A4の用紙に付箋を貼る。 •全員で黒板に貼った模造紙（タイムマシン法）に各自の付箋を貼りだす。その際、 	<ul style="list-style-type: none"> •付箋が1人5枚程度×3色行き渡るよう用意をする。また、付箋が足りなくなった場合は、適宜、再配布する。 •15年後とつながる項目はなるべく横列をそろえて貼る。 •15・10年後とつながる項目はなるべく横列をそろえて貼る。

	<p>似た意見は重ねる。</p> <p>○付箋に『5年後の世界のありたい姿や目標』を書きましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自、1付箋につき1項目『5年後の世界のありたい姿や目標』を書き出し、A4の用紙に付箋を貼る。 ・全員で黒板に貼った模造紙（タイムマシン法）に各自の付箋を貼りだす。その際、似た意見は重ねる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちが直面している様々な課題を解決するために、課題解決に向け行動変容を促していくことが大切であることに気付かせる。
--	---	---

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
<p>「人間の安全保障」の観点から、すべての人々が安心して生きることができ、その生活が人間らしいものであることについて考え、私と世界との結び付き、持続可能な社会を創造する態度を身に付けようとしている。</p>	<p>「持続可能な開発目標（SDGs）」を手がかりとして、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p>	<p>「JICA 地球ひろば」における展示物から、有用な情報を適切に選択するとともに、効果的に活用することができる。</p>	<p>地域社会の一員として認識し、持続可能な社会を創造するための知識を身に付けている。</p>

【備考：時数の取り扱いについて】

「人間の安全保障展－世界の幸せと悲しみ－」と持続可能な開発目標（SDGs）の両展示の事後学習を想定した指導案となっており、最大総時数が6時間となっているが、しかし、各学校の時数やねらいに合わせ、「人間の安全保障展」を中心とした事後学習（3～4時間）、持続可能な開発目標（SDGs）を中心とした事後学習（3～4時間）に、柔軟に組み合わせが可能なように構成してある。以下の①～③を参照していただきたい。

① 「人間の安全保障展」と持続可能な開発目標（SDGs）の両展示の事後学習の場合

パターン	時数	組み合わせ
A	6時間	1次：世界のメッセージと世界の現状（1時間） + 2次：「人間の安全保障」について考えよう（2時間） + 3次：SDGsからグローバルイシューを考える（2時間） + 4次：世界を変える・未来への提言（1時間）

② 「人間の安全保障展」を中心とした事後学習の場合

パターン	時数	組み合わせ
------	----	-------

B	3 時間	1 次：世界のメッセージと世界の現状 (1 時間) + 2 次：「人間の安全保障」について考えよう (2 時間)
C	4 時間	1 次：世界のメッセージと世界の現状 (1 時間) + 2 次：「人間の安全保障」について考えよう (2 時間) + 4 次：世界を変える・未来への提言 (1 時間)

③ 「持続可能な開発目標 (SDGs)」を中心とした事後学習の場合

パターン	時数	組み合わせ
D	3 時間	1 次：世界のメッセージと世界の現状 (1 時間) + 3 次：SDGs からグローバルイシューを考える (2 時間)
E	4 時間	1 次：世界のメッセージと世界の現状 (1 時間) + 3 次：SDGs からグローバルイシューを考える (2 時間) + 4 次：世界を変える・未来への提言 (1 時間)

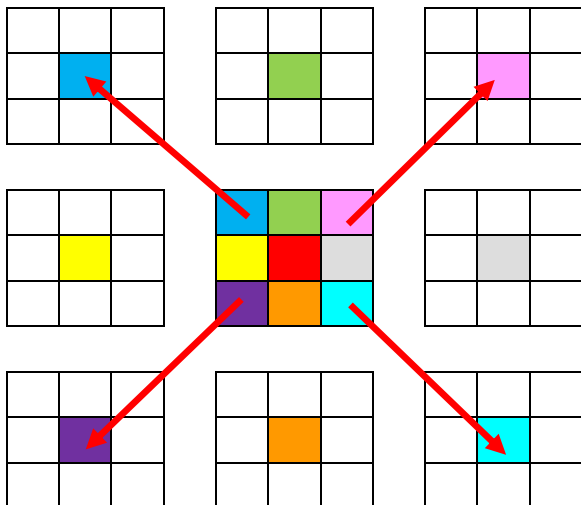
3 補足 参加型学習の手法の解説

【マンダラシート】

アイデアを整理し、広げ、思考を深める手法。3×3のマス目(以下、マンダラシート)をつくり、中心にテーマを書きだす。次に連想するアイデアを周囲の8つのマス目に書き出す。その後、新たに8枚のマンダラシートを用意して、先ほどのアイデアを中心に書き出し、さらにアイデアを広げていく。その際、5W2Hを意識し、Who(だれが、どこが、対象は?)、What(何を?)、why(なぜ、その意義は?)、When(いつ、達成までの期間は)、Where(どこで、どの国・地域で)、How much(コストは)、How to(どのように、どうプロデュースする)、Etc(5W2H以外で必要な情報)を意識しながら書きだすとよい。また、時間が限られる場合は8つの内4つ程度でも構わない。

※ マンダラシートは添付資料1を参照のこと。

【図1：マンダラシート】



【図2：5W2Hシート】

Who ・だれが、どこが	When ・いつ	Where ・どこで?
What ・何を?	Key Word	How much ・コストは?
Why ・なぜ?	How to ・どのように	Etc 5W2H 以外で

【ウーリーシンキング】

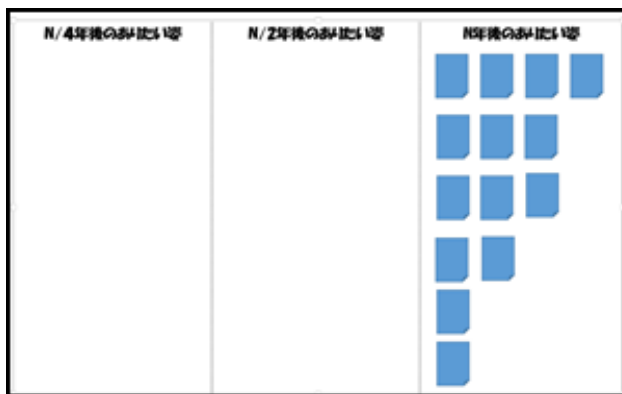
ウーリーシンキングとは、毛糸（ウール）を用いて様々なカテゴリーとのつながりを可視化する手法。つながりを可視化することで、課題や問題が複雑に絡み合いつながることで課題解決にむけて行動を促すことを認識することに効果的である。

※つながりシート及び交渉記録は添付資料 2・3 を参照のこと。

【タイムマシーン法】

タイムマイン法とは、ビジョンをつくり、至るまでの道筋を描く手法。N年後の自分たちの姿を想像して、そのときにどうなっていたいか、どういう状態であればよいかなどを出し合う。次に、それを実現するためにはN/2年後にはどうなっていればよいかを、同じように出し合う。さらに、N/2年後の姿を実現するために、N/4年後はどうなっていればよいかなどを出し合っていく。

【図 1】



【図 2】

